

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100304		
法人名	医療法人 大分朋友会		
事業所名	グループホーム ほうゆう		
所在地	大分市大字下宗方櫛引258番地		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100304-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三差評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番の1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成30年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地、環境が自然に囲まれゆったりとした家庭的な雰囲気の中、開放的で自由に出入りできるようなオープンにしている。面会、見学も制限せず利用していただいている。利用者、家族が共々安心して生活できるような施設づくりを職員一同取り組んでいる。又医療との連携、在宅診療、緊急な場合などの連携も充実している。

医療、福祉で地域に貢献したいという法人の考えから「理念、運営方針」が作成されています。地域連携を図る中で、法人敷地内にある畑を地域に開放し、野菜作りを行っています。季節の野菜の差し入れや、年に一度の「イモ煮会」を地域と家族を招き開催し、大変喜ばれています。地域のボランティアの受け入れ、地域の行事には積極的に協力する等双方向的な連携が図られています。家族からの要望で中庭に足湯(温泉)を設置したり、面会に来られた家族が意見を出し易い「お知恵拝借箱」と称した意見箱の工夫をしています。また、昼食後の一時を職員は新聞の中の記事を題にし、利用者と楽しく会話し、自由に発言する利用者の笑顔に家庭的で明るい雰囲気の中、安心と信頼で自分らしく生きる姿が見られました。管理者は、創設者の思想の反映を軸にGHほうゆうでの有意義な暮らしぶりに力を注いでおり、更なる向上と運営の継承を思案しています。地域密着型サービスの本質に関わる外部評価への取り組みにおいて、全職員を巻き込んだ項目の検討・協議も可能ではないかと思われまます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と運営方針を施設内に掲示し家庭的で明るい雰囲気と地域医療の連携に努めている。	「人間らしく、生き活きた人生を送る」法人の考えを基本に理念及び運営方針が作成され、玄関やホールに掲げられ理念の共有と実践に繋がられています。職員一人ひとりが考え、利用者に寄り添うケアを実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事参加(老人会の集い、敬老会)いきいきサロン地域のボランティアの受け入れ又隣接する農園に来られる方との交流を行っている。	医療、福祉を通し地域貢献を行う中で、地域との様々な交流を行っています。敷地内にある畑を近隣の方に開放し、野菜作りを行い地域の方と一緒に「イモ煮会」を行ったり、お互いのボランティアの交流(地域敬老会で職員の芸で参加)等相互関係の構築が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター(キャラバンメイト)在職地域の小学校、老人会、他事業所等の依頼で出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の施設内状況、行事、事故などを報告、出席者からのご意見や行事など、お伺いし運営に活かしている。	定期的に開催している運営推進会議は、事業所の活動(写真でも開示)報告、ヒヤリハット事例や事故の見直し、対策等を説明し、透明性のある運営体制が行われています。議事録に参加者の活発な意見交換や提案がなされており、委員の協力的姿勢が運営に反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき市町村の動きやアドバイスを運営に活かしている。必要時には相談に向かうようにしている。	行政、地域包括支援センターからは、運営推進会議に出席して、事業所の実情を把握してもらうとともに、情報やアドバイスをもらう等、良好な関係作りに取り組んでいます。	市の職員が運営推進会議に欠席した時は議事録等を直接市の担当者に届け、意見等の情報交換を行い、更なる協力関係が築かれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は常に玄関、窓も開放、夜間は夜勤一人の為、安全管理の為19時施錠。ケア会議や朝の申し送りで具体的な行為を検討することで拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会を年4回行い、その内容と弊害を認識するとともに、事務所に掲示し、周知徹底を図り、拘束の無いケアに取り組んでいます。徘徊の利用者にも職員同士の声かけや所在確認の徹底により、玄関を開錠する等自由な環境を作っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事、テレビでの情報等の虐待問題で朝の申し送り、ケア会議で意識づけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演会、研修会に参加、学ぶ機会を持つようにしている。必要があればアドバイスしていただくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明を行い、不安疑問がないか確認。理解、納得を得られるよう十分な説明を行って契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、最近のご様子などお話しして情報を提供しご意見、ご要望があれば、その都度検討、対応している。	利用者の意見、要望等は、普段の関わりの中で把握しています。家族には面会時、運営推進会議参加時に意見、要望等を聞いています。その中で中庭に「足湯(温泉)」を造って欲しいとの要望に答えており、利用者、家族、地域の方にも喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者会議、各委員会などで、意見、要望を提案、検討して頂いている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、個別面談や適宜声かけをする等、職員の意見や提案を収集し運営に反映させています。また、「労働安全委員会」があり、産業医によるメンタルケアを実施しており職員のストレス軽減にも取り組み、働きやすい職場作りを目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はケア会議等にて職員の要望、意見等を聞き、条件、環境の整備に努めている。又年に一回個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の目標に向かって、研修や自己学習でスキルアップするよう朝礼などで研修会などの紹介や参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分市のグループホーム協会に加入。勉強会、研修し、レクレーションなどに参加、交流を行っている。他施設との交換実習を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に説明を行い、不安、疑問がないか確認。理解、納得が得られるよう、十分な説明を行って契約を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で家族の困っている事や要望を聞く。又面会時には情報提供したり、お話をし信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学時に本人や家族の希望を聞き取り、必要なケアが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの趣味、能力、特技を尊重し本人と職員が共に過ごし支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間制限もなく、いつでも面会外出が可能である。本人、家族の気持ちを配慮し、施設との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもゆっくり面会できるよう配慮している。一緒にお茶を飲んだり昼食ができるよう取り組んでいる。	家族、友人の協力も多く、利用者と馴染みの場所に外出しています。また、隣接するデイケアに来る友人との交流等利用者から聴取した情報を大切に、支援に繋げています。職員との馴染みの関係も大きく、配置転換は行わない方針です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	突然怒り出す入居者や難聴の方、お話を理解できない方などスタッフが間に入り穏やかに過ごせるよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は関わることはないが、必要に応じて、相談、本人のニーズに合わせ支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の状態や思いを大切に意向に沿ったケアを対応している	定期的なアセスメント、モニタリングによる意見等の把握の他、昼食後や入浴中一对一の会話の中から表情、言葉や口調、しぐさ等から思い(本音)を把握し、情報は職員間で共有を図り本人本位のケアに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴、状況、状態等把握している。入居してからは、身体状況や日常生活を観察している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の状態、様子など観察、又本人との会話から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に沿ってケア会議、ミーティングなどで、スタッフの意見、情報を取り入れ介護計画に反映している。	利用者、家族、担当職員、主治医からそれぞれの意見を反映し、ケア会議にて検討事項を対応、変更があれば、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化に応じ、スタッフで話し合ったり、申し送りや朝の朝礼で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに合わせ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、訪問ボランティアなど必要に応じ参加。本人の持っている能力を発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、定期的な在宅診療と24時間対応の連携体制を確保。健康には配慮している。	明確な体制(訪問診療・かかりつけ医一家族同伴、緊急時一診療所・専門医一家族同伴)、及び訪問診療時の記録は「診療所より家族へ送付、家族は確認書を提出」の一連の仕組みが成されるなど、家族と共に支え合う関係を大切にしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制確保、利用者に異常が見られたら速やかに支援できるよう体制を確立している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は状態把握の為、訪問、状態を確認。退院時のケアカンファレンスにも参加。職員への情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合っている。その都度意向をお聞きし医療関係との連携にて対応を行い、支援に取り組んでいる。	入所時の施設説明、心身状態(終末期)の判断に基づく医師説明の過程より、必要に応じ家族の意向確認が行われています。家族の本音と寄り添う医療支援と生活援助を大切に、暮らしに繋ぐ姿勢(職員間の情報の共有と連携を含む)が伺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携体制も整っており対応マニュアルに沿って対応できるよう支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと定期的に昼夜の避難訓練を行い安全確保に努めている。	避難訓練(法人1回・ホーム1回)は、危機管理委員会を主体に活動が進められ、訓練前後には防災意識の共有の機会を得ています。マニュアル(洪水時や土砂災害における避難確保計画)の設置、また、地域の防災訓練には職員も参加しています。	火災・自然災害等の防災避難において、職員連携と意識の向上に努めています。安全対策においては、地域の消防団との連携づくりと地域住民への協力依頼など、着手・関係構築に希望が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの守秘義務については、職員一人一人が十分理解徹底しプライバシーの確保に努めている。	共感の思いと尊重を軸に、利用者本位の心豊かな支援(職員間のチーム力の発揮)に取り組んでいます。日中の玄関の施錠はされず、利用者への対応・家族への配慮に目を向けた開かれた施設運営、柔軟な支援が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により自分の要望など表現するのが難しくなっている方については、日常生活の中で職員が思いを感じ取り支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則、時間などにとらわれず、起床時間、食事提供時間など状況に合わせて支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族に好みや個性を聞き取り、個性を尊重した支援を行うよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を使った料理、地域の方々に頂いた野菜、魚。どんな料理法があるか聞いたりし、希望を取り入れた食事作りをしている。一緒に準備、片付けをしている。	ユニット毎の食事づくり(朝夕のご飯と昼の全献立)にて、食への期待感(五感を通しての楽しみ)と味わい、一緒に食卓(職員との話らい)より、趣の豊かさが感じ取られます。イベント食への配慮、地域ボランティア(食事作り)の協力も得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、必要に応じ水分量のチェック、食欲のない時、嫌いなメニューの時は、調理法を変え飽きないように工夫している。その時に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時前、食後に口腔ケアを行っている。自立の方の声掛け、できない方は職員が見守り一緒に行っている。歯科医との連携もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄習慣を忘れないように入居者様の体調に合わせて、声掛け、介助を行っている。	排泄パターンの把握、体調や表情・仕草から得る尿意への気付きと職員間の共有、また、声かけや羞恥心への配慮にも努めています。居間(日中)で過ごせる支援、雰囲気づくりも大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬には依存せずメニュー、おやつ、水分補給にて、便秘予防に心掛け、状況に合わせて医師と相談、投薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて入浴やシャワー浴、臨機応変に対応している。時間の制限もなく、ゆっくり入浴していただいている。	週2回(3人の介護者配置を要するケース)~3回の援助が行われています。利用者との相互関係を大切に、不安なく過ごせる見守りと声かけや会話に努めるその姿勢からも、チーム力を支援に活かす取り組みの様子が伺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節、環境の変化に対応し、寝具、空調の管理を行い、安心して睡眠がとれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬情報を把握し、与薬時には、名前、月日、本人の確認、飲み込みを必ず見守り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好や趣味を理解し、気分や体調に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には職員が付き添い、ホーム外を散歩、家族との外出は自由に行っている。	利用者と家族の思いの汲み取り、身体機能・能力の保持(ハード面の整備/園内の散歩コース・温泉足湯場)を踏まえた日常支援に取り組んでおり、設備の活用やテラスでのティー・タイム、職員同伴での来訪者のお見送り(門扉)も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布(小銭)を持っていらっしゃる方は、自己管理して頂き、ジュースを買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙連絡は必要時に職員が支援をしている。(携帯を持っているかたにも支援している)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに心掛けている。季節の装飾品やお花を飾り、楽しんでいただけるよう工夫している。	季節の彩をめぐる空間づくり・利用者の作品(絵画・書道教室)の掲示、心身への配慮(椅子の配置)にて、和めくつろげる関係性への支援に努めています。掃除(清潔と香り)の徹底、心地よい暮らしへの着眼にも、職員力が発揮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる場所や雰囲気作りに心掛けている。ソファやテーブル、椅子等の配置もその都度工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が大切にしている家具、寝具、装飾品を居室に置き、安心して過ごせるように配慮している。	利用者と家族の思いの尊重(大切な物品の持ち込みなど)、落ち着ける居室づくりにおいて、安全な暮らしと居心地良さをへの配慮・環境設定に努めています。家族との相互連携の取り組みを支援に繋げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、居室のレイアウトを検討し、安全かつ安心して生活が出来るよう又出来るだけ自立した生活ができるよう工夫している。		